

# 令和6年度 学校評価 アンケート結果

## 1 実施方法

実施計画に基づき今年度の学校運営について、教職員、保護者、児童生徒、関係機関へのアンケートを令和6年11月25日～11月29日(保護者は12月6日まで)の期間で実施した。アンケートを集計し結果をまとめ、学校運営協議会委員から意見をいただき学校関係者評価とする。

今回の結果をもとに、反省会で改善の方策を検討し、協議の上、次年度の運営計画に反映させる。

## 2 対象者

アンケート調査 教職員54名(事務・現業職員含む)、保護者36名、児童生徒36名(各学部とも適宜聞き取り)、関係機関10名

## 3 アンケート項目

- (1) 教職員 学校運営計画の重点目標5項目と、いじめ、体罰、働き方改革等に関する質問14項目。
- (2) 保護者 教育活動、学校生活、学校との連携、いじめ、体罰等についての質問12項目。
- (3) 児童生徒 学校生活、学習内容、いじめ等に関する質問9項目。
- (4) 関係機関 教育活動、学校との連携、いじめ、体罰等についての質問12項目

## 4 アンケートのまとめ

### (1) 教職員

#### ①教員(44名回答:回収率94%)

肯定的評価(A:そう思う、B:だいたいそう思う)の割合は全体の平均が94%で高い評価である。高い評価項目は2「生活習慣指導」、4「実態に応じた指導」、6「ICT機器の活用」、11「いじめの未然防止」、12「体罰・不適切指導の予防」が100%、比較的低かった項目は5「授業改善」(82%)、14「業務改善」が69%であった。その他については全て90%以上の評価であった。

自由記述では、授業改善の取り組み強化(互見授業の取り組みについて)、キャリア教育の学部連携、研修の在り方、業務の改善、人的なフォロー等、様々な記載があった。特に業務分担等についてはたくさんの意見をいただいたので、反省点、改善点を次年度の計画に生かしたい。

#### ②事務現業(7名回答:回収率100%)

肯定的評価の割合は平均で94%であった。3「ワンハートボックス」の適正な運用については、57%の評価であり、以前から検討されているが、なかなか議論が進んでいない。なぜこれが必要なのかなど意義を説明したり、例えばデジタル化して、今回の教職員の意見のように記述してもらうのも有効な手段ではないかと考える。

### (2) 保護者(14名回答:回収率39%)

肯定的評価の割合は1「規則正しい生活習慣」以外の項目は100%であった。ただ、全保護者から直接の回答が難しいという現状もあり、意見のとりまとめが難しい。また、調査期間を長くし、紙でのアンケートを早めに配付することも検討し、たくさんの意見も集められるように工夫したい。

評価C:あまりそう思わないの記載があった項目1は、児童がなかなか学校に行けていない。

いただいた意見・要望にもとづき具体的な対策を検討し、引き続き改善に努めていく。

### (3) 児童生徒 (29 名回答：回収率 81%)

肯定的評価の割合は平均で 92%であり、ここ数年では高い評価である。学部ごとに比較すると、小学部 86%、中学部 92%、高等部 95%で、概ね好評価である。

高い評価の項目は、小学部 1「きまりを守る」、2「行事・児童会活動」、中学部 1「社会性」、2「委員会・行事」、3「授業のわかりやすさ」・7「いじめ防止」・9「本校で学んでよかった」、高等部 3「授業のわかりやすさ」、6「相談できる先生」、7「いじめ防止」、8「安心安全」、9「本校で学んでよかった」がそれぞれ 100%である。どの学部でも 1, 2, 3, 7, 9 の項目で高い評価が出ている。

低い評価の項目は、小学部 4「授業や課題への取り組み」63%、8「安心安全」75%、中学部 4「授業や課題への取り組み」75%、5「進路」75%、高等部 4「授業や課題への取り組み」77%である。項目 4 が共通して低く出ている。また小中学部で 8 が低めである点については、不安を取り除く対策が必要である。

自由記述欄では、いじめや生徒間の暴力・暴言についての記載があったので、いじめ防止対策委員会と連動して確認していきたい。また今回、一人一台の端末を利用した実施だったが、回答で C, D を選ぶと必ず理由の欄を入力しなければ次へ進めないようにしたため、A, B を選択した生徒もいたかもしれない。

### (4) 関係機関 (7 名回答：回収率 70%)

肯定的評価の割合は 98%であり、昨年度から 8%増となっている。ただ 13「地域への貢献」については評価 C が 2 名あり、記述の中には地域の学校からの声、相談者からの指摘なども記載されている。これについては今後原因を分析し、これらの解決のための対策を講じる必要がある。

いただいた評価・ご意見にもとづき、今年度の反省点、改善提案を次年度に生かしていきたい。